

冬の健康だより

泉第2チェリーこども園

冬に流行しやすい主な感染症

病 名	主な症状	注意すること
溶連菌感染症	○発熱、咽頭扁桃炎、いちご舌などが特徴的な感染症です。 菌が残らないように医師の指示通り抗菌薬を服用し、数日経過後に登園可能となります。	●飛沫感染や接触感染、経口感染に感染する為、手洗いの励行 ●病原体により発症するので、医師の指示通り、処方された薬を飲み切る事 日本感染症学会はワクチンの積極的な接種を推奨しています。
インフルエンザ	○発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛、咳、鼻水などの症状が見られます。	●小児が罹患すると中耳炎の合併、熱性けいれんや小児喘息の誘発、髄膜炎などを起こして重症化することもある。
感染性胃腸炎	○ノロウイルス、ロタウイルスに感染することで発症。嘔吐や下痢の症状が見られます。通常の食事がとれるようになったら登園可能です。	●子どもや高齢者などが感染すると重症化することがある。 ●感染経路は経口感染(汚染された食品を食べて感染した人の嘔吐物や便などに触れた手を介して感染)、飛沫感染(吐物などで生じたウイルスを含む飛沫を吸い込んで発症)
おたふくかぜ (流行性耳下腺炎)	○耳の真下にある耳下腺が腫れる。 ○発熱、食欲不振などがみられます。	●高熱が続く、頭痛が強い、何度も吐くといった症状は髄膜炎を起こしている可能性があるため、予定の再診を待たずに早めに受診すること。
RS ウィルス	○4～6日の潜伏期間のあと、咳・鼻水・徐々に咳が酷くなり、ヒューヒュー・ゼーゼーと喘鳴が伴ったりする。	●低年齢ほど重症化しやすく、呼吸状態が悪い場合入院が必要になることもある。
マイコプラズマ 肺炎	○咳。発熱は微熱から高熱まで様々。中耳炎、発しんを伴うこともある。	●熱が無くても咳が1週間以上続く場合は肺炎を起こしていないか1度はレントゲン撮ってもらった方が良い。

- 上記感染症は、医師に登園可能か確認後、登園願い(保護者記入)の提出が必要になります。
- 38度を超える発熱がある場合は、翌朝熱が下がっても、解熱してから24時間は自宅療養し、食欲や機嫌、咳など回復をみて登園させて下さい。
- 兄弟姉妹が発熱している場合は、時差で発熱することも多く見られます。一緒にお休み頂くようご協力お願いします。

知って感染を
防ごう!

嘔吐、下痢の処理の仕方



Smart 119



(株)Smart119 CEO
千葉大学救急集中治療
医学教授
中田 孝明 先生

■ 感染性胃腸炎とは、原因とは？

感染性胃腸炎の病原体は細菌、ウイルス、寄生虫などがあります。今回の解説は、感染性胃腸炎の中の、多くを占めるウイルス性に関するものです。

一般的に知られているのが、ノロウイルス、ロタウイルスなどです。感染性胃腸炎は、家族内、保育園、幼稚園、学校などで人から人へ感染を起して流行し、「おなかのかぜ」としてよく認められる病気です。



市立ひらかた病院
小児科部長
谷口 昌志 先生

感染経路

- ・感染者の嘔吐物、便に触れた手や、手で触れたものを介して口に入り感染
- ・嘔吐物の飛沫から感染
- ・汚染された食品や水からの感染など



消毒液の作り方・用意するもの

手袋・マスク・エプロン(すべて使い捨て)・拭き取るための新聞紙
ペーパータオル・ビニール袋・塩素系漂白剤(次亜塩素酸ナトリウム)

薄めた塩素系漂白剤 汚れた床、トイレに使用する濃度
(次亜塩素酸ナトリウム) ペットボトルの水(500ml)にペットボトルキャップ2杯の塩素系漂白剤



※嘔吐物、排泄物の処理には、約0.1%濃度の希釈液を使用します

★目に入ったり、皮膚に付着したり、吸い込みなどがないように気を付けましょう!

処理方法

- ① 使い捨ての手袋・マスク・エプロンを着用する
- ② 嘔吐物、便を新聞紙やペーパータオルなどで取り除き、ビニール袋に入れます
- ③ 拭き取った部分にペーパータオル等をかぶせ、薄めた塩素系漂白剤をかけた後に再び拭き取る
- ④ 手袋・マスク・エプロン・取り除いた嘔吐物を二重のビニール袋に入れて捨てる

★換気をして、汚物が乾燥する前に速やかに処理しましょう

★処理後は手洗いを!



ウイルスが付着した手がおもちゃに触れ、そのおもちゃを介して感染することもあるためおもちゃの消毒も重要です



アルコール消毒は有効?

通常のアルコール消毒ではノロウイルスなどの除菌ができないといわれています。

有効なのは次亜塩素酸ナトリウムです

感染対策

- ・トイレの後、オムツ交換の後、調理の前、食事の前にしっかり手洗い
- ・食品の十分な加熱



注意したい人

感染性胃腸炎は、誰でも起こります。しかし、高齢者、免疫力の低い子供では重症化しやすいです。嘔吐や下痢により、脱水症状から命にかかっていることもあるため水分補給が何より大切です

こんな時は受診を!

嘔吐の回数が多い、水分摂取ができない、おしこの回数が減っている、顔色が悪いときや元気がなくぐったりしている時には、早めに受診することをオススメします。

制作

Smart119

監修協力

新井久美子(救急科専門医)、横山達郎(麻酔科/集中治療科専門医)

情報元

日本医師会 https://www.med.or.jp/clinic/sick_outo.html国立感染症研究所 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/452-norovirus-intro.html>東京都感染症情報センター <https://idsc.tmph.metro.tokyo.lg.jp/diseases/gastro/index.html>